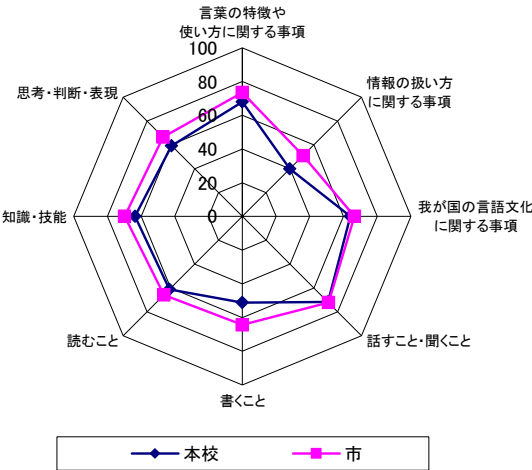


宇都宮市立宝木小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	言葉の特徴や使い方に関する事項	68.0	73.5	74.4
	情報の扱い方に関する事項	39.8	51.0	51.5
	我が国の言語文化に関する事項	64.1	66.5	68.8
	話すこと・聞くこと	71.8	72.3	73.7
	書くこと	51.1	64.3	66.6
	読むこと	61.2	65.8	64.9
観点別	知識・技能	63.7	69.8	70.8
	思考・判断・表現	59.3	66.5	67.3

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や 使い方に関する事項	平均正答率は市と比べて下回っている。 ○意図に応じて、質問を工夫している話し方を選択する設問では、正答率8割以上と市の平均を上回った。 ●既習の漢字を書きとる設問では、市の平均より10.1ポイント低かった。 ●文と文の接続語を記述する問題では、市の平均より15.4ポイント低かった。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・漢字の書き取りに関しては、全体指導と共に、一人一人の能力に応じた活動を通して漢字を書きとる能力が高まるようにしていく。 ・音読をするだけでなく接続語に注目させ、その前後の繋がり方や意味の成り立ち方を確認することを通して、読み取りを深めていく。
情報の扱い方 に関する事項	平均正答率は市と比べて下回っている。 ●注意書きをもとに、ポスターの下書きの空欄に記入する問題では、正答率は3割で、市の平均を21.2ポイント下回った。	・情報の扱い方の学習について、単元で扱う教材を通しての活動だけでなく、社会等の学習において掲示物を作成するときにも、効果的な作成方法を指導することを通して、正しく情報を扱ったり、理解したりする能力を高めていく。
我が国の言語文化 に関する事項	平均正答率は市と比べて下回っている。 ●熟語の成り立ちについて正しい組み合わせを選択する問題では、市の平均より7.4ポイント下回った。 ●敬語が正しく使われている文章を選択する問題では市の平均を5.7ポイント下回った。	・国語の授業で熟語の構成や意味を学習することの他に、他の教科で扱う言葉でも熟語としての見方を用いることを通して、横断的に学習をする。 ・児童が話す言葉だけでなく、教師も児童が扱うことのできる簡単な敬語を会話に多く取り入れることで、日常的に正しい敬語に触れる経験を積むことができるようにする。
話すこと・聞くこと	平均正答率は市と比べて同等である ○話し方の工夫として正しいものを選択する問題では、正答率8割以上と、市の平均を4.1ポイント上回った。 ○放送を聞いて話の内容を捉える問題の、正答率は9割以上であり、市の平均と同等だった。 ●質問の意図に応じて話しの内容を捉える問題では、市の平均を3.7ポイント下回った。	・問題文を最後まで読み切る習慣をつけることで、設問を正しく読み取ったり、設問で問われることを正確に捉えたりすることができるようにする。 ・登場人物の考えやその理由を考える活動を通して、言語活動を重点的に指導していく。
書くこと	平均正答率は市と比べて下回っている。 ●指定された長さで文章を書く問題では、正答率が5割程度と市の平均を15.1ポイント下回った。 ●設問の条件に合わせて意見を記述する問題では、正答率は3割程度で、市の平均を11.2ポイント下回った。	・文章の始まり方や終わり方を意識して記述する活動の指導をしていく。 ・文章を書く時の場面設定や決まりを大切にしながら、書くことのポイントや表現方法、形式などの具体的な知識・技能についての指導をしていく。
読むこと	平均正答率は市と比べて下回っている。 ○文章を読み取り情報を整理する問題では、正答率5割程度だが、市の平均と同等である。 ●文章全体の構成を捉えて要旨を把握する問題では、市の平均を、5.2ポイント下回った。	・授業の中で教材文を話を読んだ感想を伝えあったり、各場面について要約したりすることで、話の重要なポイントを捉える力を高めていきたい。 ・普段実施している読書の時間に加え、感想や要旨を書く活動をするを通して、資料を深く読み取れるように指導していきたい。